

霧島山・新燃岳

(12月5日現在)

火山活動評価：やや活発な火山活動(レベル2)

12月3日に火山性地震が急増し、やや活発な状態となりました。

12月3日に火山活動度レベルを1から2に引き上げました。新燃岳の火山活動度レベルが2となったのは平成18年5月22日以来です。

火山活動はやや活発な状況で、火口付近では注意が必要です。

概況

- 地震・微動活動(表1、図1、図2)

火山性地震の発生回数は、3日に114回と多発しました。その後、4日に13回、5日に2回と少なくなっていますが、2日以前に比べ火山性地震はやや多い状態です。

求まった震源は、新燃岳直下付近のごく浅いところに分布しています。

- 噴煙活動(図3)

監視カメラでは火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

5日に実施した現地観測では、従来から認められていた弱い噴気が確認できた程度で、新たな噴気等は観測されませんでした。

- 熱活動(図3、図4)

5日に実施した現地観測では、熱異常域の拡大等は認められませんでした。

2006年12月	1日	2日	3日	4日	5日
地震回数	2	2	114	13	2
微動回数	0	0	0	0	0

表1 新燃岳付近を震源とする地震微動回数(2006年12月1～5日)

この資料は気象庁の他、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)、25000分の1の地形図を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

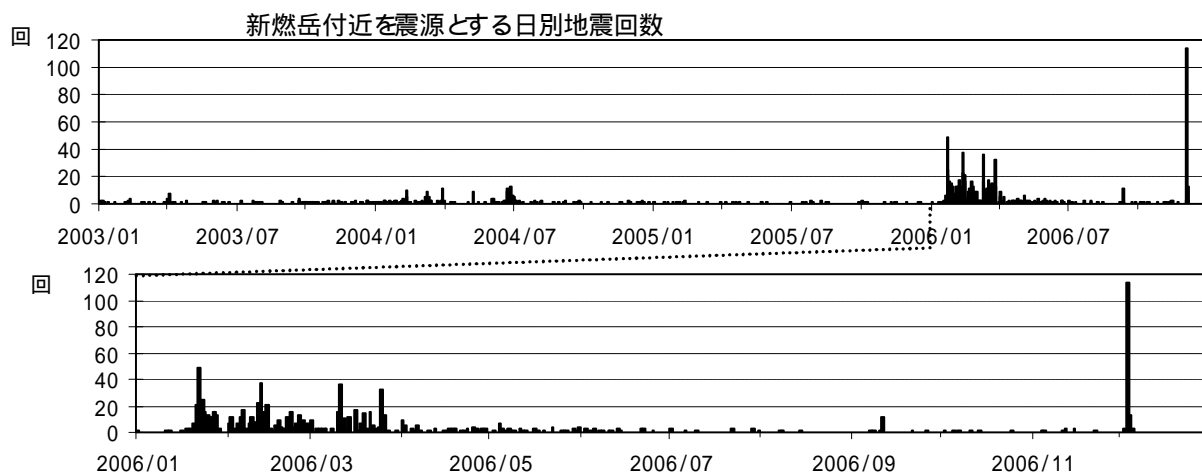


図1 新燃岳付近の火山活動経過図(2003年1月~2006年12月5日)

- ・ 12月3日に火山性地震の発生回数が114回と多発しました。
- ・ 火山性微動は発生していません。

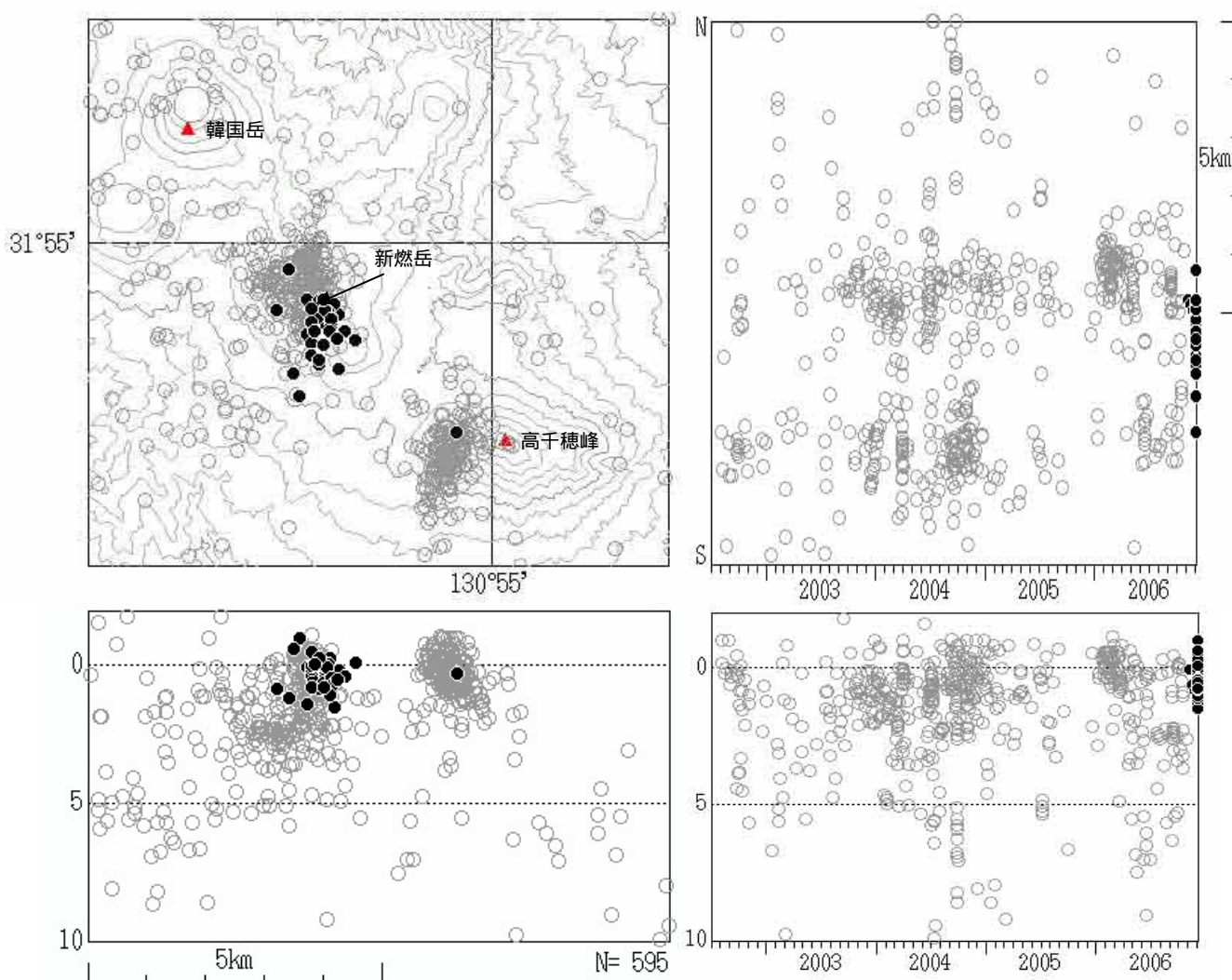
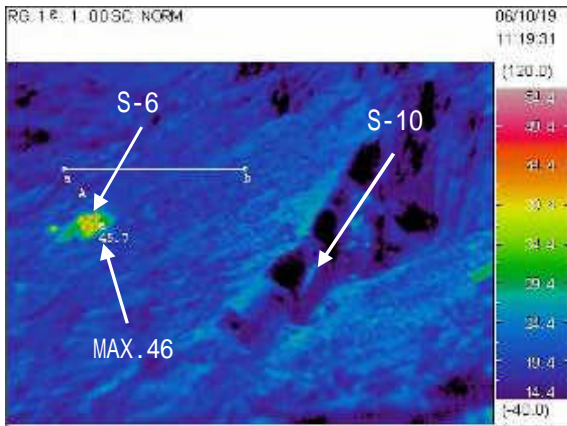
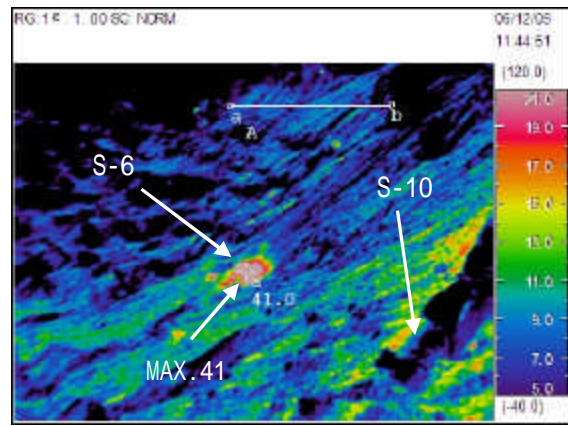


図2 震源分布図(2002年7月~2006年12月5日)

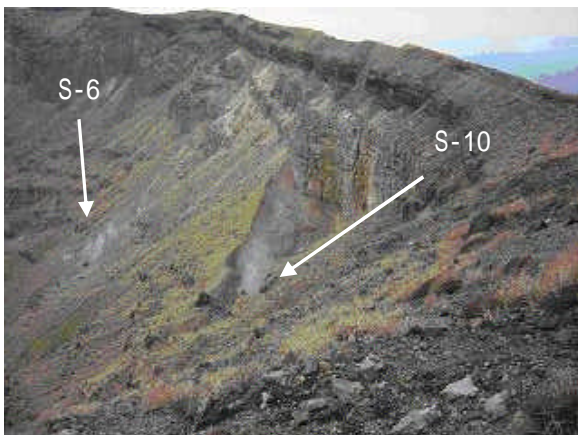
- ・ 今期間(12月1~5日)の震源は黒丸で表示しています。
- ・ 12月3日に新燃岳付近で発生した火山性地震のうち42個の震源が求まりました。これらの震源は新燃岳直下付近のごく浅いところに分布しています。



2006年10月19日撮影の熱画像



2006年12月5日撮影の熱画像



2006年12月5日撮影の可視画像

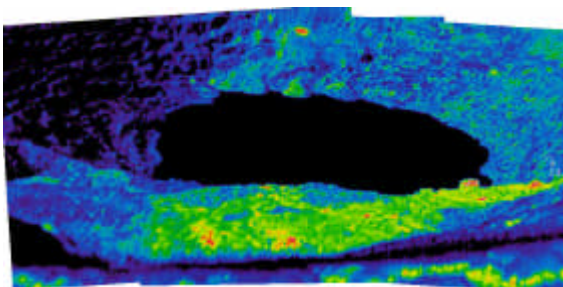
図3 新燃岳火口内西側斜面の噴気孔(S-6、S-10)の可視画像と赤外熱画像

左上：熱画像(2006年10月19日撮影)

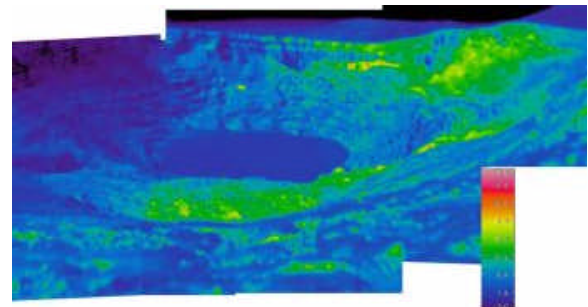
右上：熱画像(2006年12月5日撮影)

左下：可視(2006年12月5日撮影)

- ・ 3日の火山性地震の多発後、噴気量および噴気孔付近の熱異常に変化はみとめられませんでした。



2006年10月19日撮影の熱画像



2006年12月5日撮影の熱画像

図4 新燃岳火口縁東側から火口内を撮影した可視・赤外熱画像

左上：熱画像(2006年10月19日撮影)

右上：熱画像(2006年12月5日撮影)

左下：火口内の可視画像(2006年10月19日撮影)

- ・ 火口内で熱異常域の拡大は認められません。
- ・ 可視画像中の枠線はそれぞれ、白枠が左上熱画像(10月)の撮影範囲、黒枠が右上熱画像(12月)の撮影範囲を示しています。
- ・ 白丸内が図3のS6・S10付近にあたります。



2006年10月19日撮影の可視画像

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。